

北神けいろうの国政報告：12月号

いつも大変お世話になっています。

「リーマン・ショック」の後は「ドバイ・ショック」

先月末に「ドバイ・ショック」が発生。

ドバイの政府系企業の業績が悪くなったため、それらにお金を貸していた、欧州の銀行の信用が失墜したのです。

その結果、すでにドルに対して円高だったところに、欧州通貨であるユーロが危ないということになりました。

ユーロ売り・円買いの流れが加速する中、円高基調に拍車がかかり、輸出関連企業を中心に景気に冷水を浴びせかけました。

もともと日本の経済は、今年の「リーマン・ショック」から景気が回復をしているといっても、まだきわめて不安定な状態。

今回の異常な円高で、景気の二番底が現実味を帯びてきました。

円市場に介入すべし！

まず、やらなければならないのは、藤井財務大臣が断固たる意思で円を売ることです。

もちろん、米国などとの国際的協調が望ましい。米国の通貨当局の方針は「緩やかなドル安」なので、十分に協力する余地はあります。

いずれにせよ、日本として、異常な円高は許さない、という気概を示す必要があります。

第二次補正予算で景気対策を実行すべし！

次にやるべきことは、来年の通常国会で第二次補正予算を通して、景気対策を実行することです。

内容としては、子育て支援、農業の戸別所得補償、公立・私立高校の無償化等を前倒しして、実施をすることです。

その際には、無駄遣いを削減することによる財源もさることながら、国債発行もいとわないことが大事です。

「財政再建」よりも「景気対策」

さらには、来年度の本予算において、景気に水をさすような歳出削減や増税をやらないことです。

特に、京都の地域も支えている中小企業が苦しい。

中小企業にかかる減税措置について、現在、政府税制調査会で廃止の動きがありますが、こんな馬鹿な話はない。

民主党は「政治主導」をかかげていますが、ミイラ取りがミイラになって、財務大臣や総務大臣が役所の係長のような発想になったら、民主党政権もおしまいでありませう。

無駄遣いや、税制の簡素化も大いに結構ですが、この二番底を打つか打たないかの瀬戸際においては、政治家として大局に立つべきです。経済は「**経世済民**」を意味します。

国民の生活を豊かにすることが政治の目的です。

「財政再建して、国減ぶ」「税制を簡素化して、国減ぶ」ことのないように、私も全力で奮闘することを皆様にお誓い申し上げます。